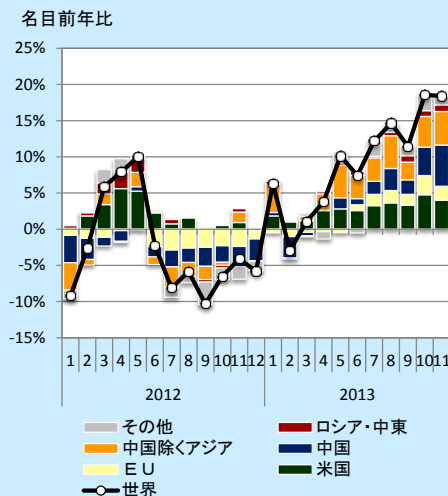


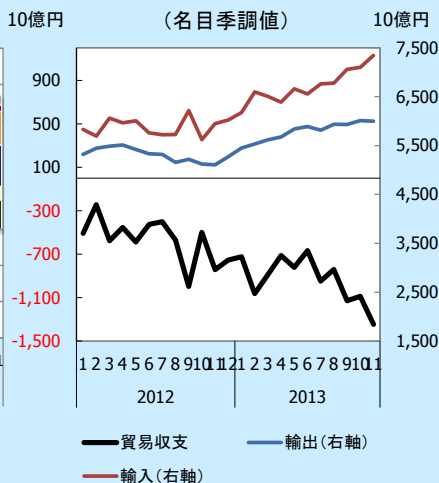
日本：貿易統計（2013年11月）

MRI Daily Economic Points
December 18, 2013

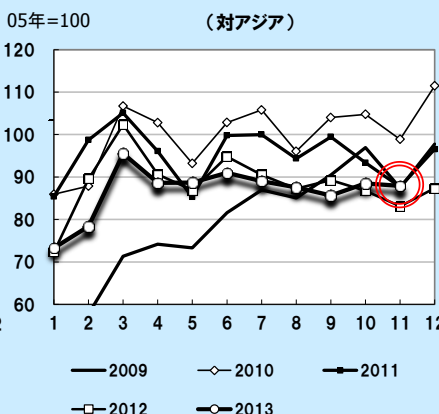
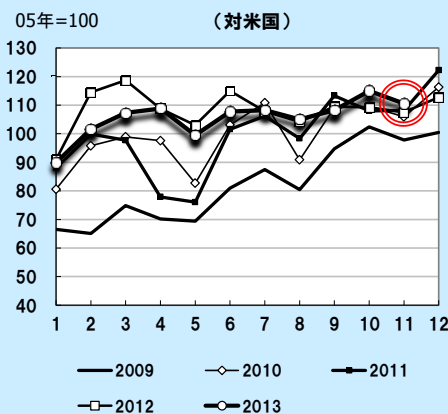
地域別輸出



輸出入と収支



地域別輸出数量指数



資料:財務省

評価ポイント

今回の結果

- 11月の貿易統計は、輸出が前年比+18.4%と9ヶ月連続で増加、輸入も同+21.1%と13ヶ月連続で増加した。
- 輸出額の増加は、円安による価格面の影響が大きいが(名目実効レートは前年比23.3%の円安、輸出価格指数は同+11.6%)、数量指数も同+6.1%と2ヶ月連続で増加。
- 輸出額を品目別にみると、鉱物性燃料(前年比+77.9%)、有機化合物(同+33.1%)、鉄鋼(同+15.4%)が引き続き伸び、昨年中国での買い控えの裏が出た自動車(同+30.1%)や、円安の恩恵もあって、一般機械(同+18.4%)、電気機器(同+2.2%)などが輸出をけん引した。
- 輸出数量を国別にみると、EU向け(前年比+0.4%)が持ち直しつつあるほか、米国向け(同+2.9%)や、アジア向け(同+5.9%)が堅調であった。ただし、アジア向けの数値は、昨年の対中国向け輸出の不振の裏もあるため、その分割り引いて考える必要がある。
- 輸入の増加は、原油及び粗油(前年比+34.9%)、液化天然ガス(同+37.4%)などの鉱物性燃料の寄与が依然として大きいほか、半導体電子部品(同+36.8%)などの電気機器部品の輸入も増加した。そのほか、特殊要因として、航空機類(同+240.4%)が輸入押し上げに寄与した。
- 日銀の実質輸出入によると、11月の輸出は前月比+0.1%と2ヶ月連続の増加、輸入は同+1.3%と2ヶ月振りの増加となった。

基調判断

- 輸出数量は持ち直し傾向にあるが、力強さに欠ける。

今後の流れ

- 先行きの輸出は、海外経済の緩やかな回復とともに、持ち直すと予想する。ただし、日本企業の海外生産比率の上昇や一部業種の製品競争力の後退により、円安による輸出数量の押し上げ効果は過去に比べ弱まっている可能性がある点には留意が必要である。
- 貿易収支は、当面、赤字基調を続けるとみられる。